

タイにおける高等教育機関の発展に関する一考察： 2000年代以降の量的拡大に着目して

ヨットモーン・ピムプラパー¹，金子 勝規²

要旨

本研究の目的は、タイにおける高等教育の普及と発展について教育省の政策を中心に整理し、タイの高等教育機関の発展を検討することである。タイにおける高等教育の歴史は1917年のチュラロンコン大学の設立が始まりとされる。その後、1960年代まで地方大学の設立は徐々に増加傾向を辿ってきた。タイでは1991年以降、後期中等教育を卒業した人の8割以上は高等教育へ進学している。また、2004年に大学進学率が50%を超え、ユニバーサル段階に入っている。2000年以降はコンピューターや環境分野の学部や学科、プログラムといったカリキュラムが急増した。タイにおける高等教育は量的拡大を遂げたと見られるが、教育の質の向上が図られてきたのかについては検討を進める必要がある。

1. はじめに

タイは段階的に教育制度の整備を進めてきた。1935年に義務教育制度が初めて導入された当時の義務教育年限は6年であったが、実際には小学4年間で修了することが一般的であった。その後、1956年に前期中等教育が開始され、6-3制という教育制度が確立した。現在の学校教育体系では、1977年国家教育計画以来、初等教育6年、前期中等教育3年、後期中等教育3年、これに高等教育が接続している。前期中等教育の進学率は1970年から1990年まで20～30%台の水準に留まっていたが、1990年に義務教育が前期中等教育まで拡張され、中等教育拡大政策により農村にある小学校に中学校が附設されたことで中等教育が普及した。その結果、前期中等教育の進学率は1990年の37.2%から1995年の68.6%までに増加し、2010年には98%に達している。

図表1は中等教育の進学率を時系列に示したものである。前期中等教育の進学率1は対象年齢の人口当たりの前期中等教育への進学率を表している。前期中等教育の進学率2は、前期中等教育1年生の生徒数を前年の小学校6年生の児童数で割ることによって求めた進学率である。同様に、後期中等教育の進学率1は対象年齢の人口当たりの後期中等教育への進学率を表している。

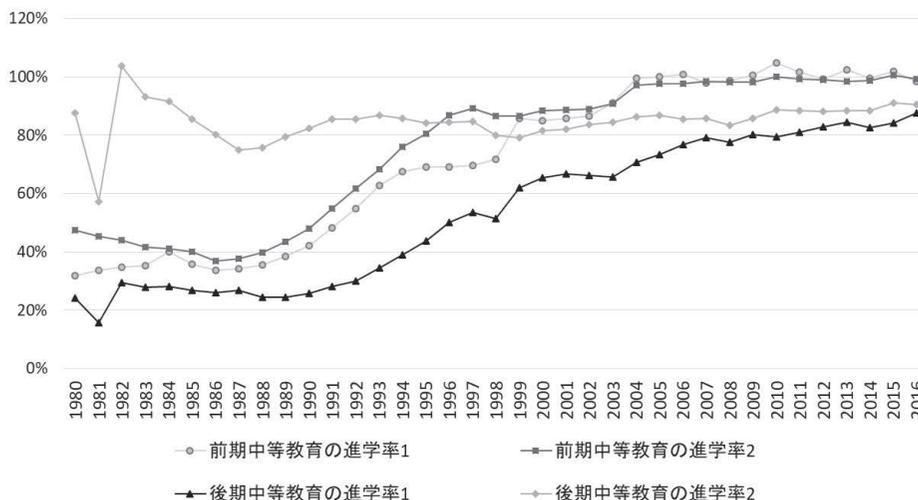
1980年代は前期中等教育の進学率1が30%台、前期中等教育の進学率2が40%前後であったが、1990年の中等教育拡大政策の実施後には進学率は急速に伸び、1995年までに

1 茨城キリスト教大学経営学部 助教

2 大阪公立大学経済学部 教授

それぞれ進学率が約70%と約80%へと倍増しており、2000年代半ばからはほぼ100%となっている。後期中等教育の進学率1も1980年代の20～30%台から1990年代の急上昇を経て2000年代に60%、2010年以降は80%を超えている。一方、後期中等教育の進学率2は1980年以降、ほとんどの年において80%を超えていることから、前期中等教育を卒業できる生徒の大半が後期中等教育へ進学するという状態が続いていることが示唆される。

図表1 中等教育進学率



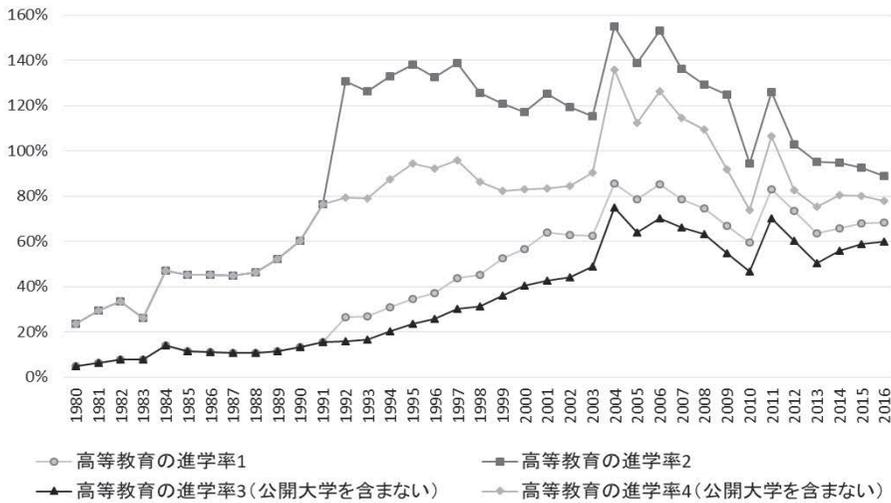
(出所) 各年の教育省Educational Statistics in Briefより筆者作成。

図表2は高等教育への進学率を示している。高等教育の進学率1は対象年齢の人口当たりの高等教育への進学率を表している。一方、高等教育の進学率2は、各年の高等教育1年生の学生数を前年の後期中等教育3年生の生徒数で割ることによって求めた進学率である。同様に、高等教育の進学率3は公開大学への進学を除いた場合の対象年齢の人口当たりの高等教育への進学率を表している。高等教育の進学率4は、公開大学への進学を除いた各年の高等教育1年生の学生数を前年の後期中等教育3年生の生徒数で割ることによって求めた進学率を示している。

高等教育の対象年齢人口を用いて計算した高等教育の進学率1は、公開大学の学生数を含む場合は1992年に20%を超えて、2001年までに60%にまで達している。公開大学の学生数を除いた高等教育の進学率3でも2004年に60%を超えて以来、50%から70%の範囲で上下を繰り返していることから、タイにおいて高等教育がユニバーサル化³していると言える。一方、高等教育の進学率3および4は、1991年以降のほとんどの年で80%を超えており、後期中等教育を卒業する人のほとんどが高等教育へ進学していることが明らかになった。

3 トロウ(1983)によれば、高等教育への進学率が15%までをエリート段階、15%以上50%までをマス段階、50%以上をユニバーサル段階と見なすことができる。

図表2 高等教育進学率



(出所) 各年の教育省Educational Statistics in Briefより筆者作成。

2. 高等教育制度の変遷

タイの高等教育は1917年に複数の専門分野を擁するチュラロンコン大学の設置に始まった。1932年には法律・政治学を専門とするタマサート大学が設立された。1943年には特定の専門に特化した大学、すなわち農業大学であるカセサート大学、医科大学であるマヒドン大学が同時に設立された。1960年代以降、チェンマイ大学、コンケン大学、ソクラーナカリンウィロート大学などが地域開発の核として地方に設立された。その後、1969年の私立大学法⁴の制定により、1974年にパヤップ大学が設置された。1970年代後半以降、ラムカムヘン大学とスコータイ・タマティラート大学という無試験で入学可能な公開大学が設置された。また、ラチャパット大学は、1892年以降に全国に設置された官立の師範学校を前身としており、2004年にラチャパット大学法を定めて大学と位置付けられることとなり、現在は国内に41校ある。2005年には職業技術教育を担っているカレッジが大学へと格上げ⁵される中で全国にラチャモンコン工科大学も設置された。こうしてタイ人の高等教育機会は拡大してきた。

タイにおける大学入学試験は1961年度から2005年度まで「エントランス」と呼ばれる統一試験が採用されていた。エントランス試験は主に2つに分けられる。一つ目は各大学の独自試験で学生を募集する大学入試である。二つ目は統一試験の成績をもとに出願して高得点順に合格者を決める入試である。大学によって独自試験で募集人数は、統一試験による入試の募集人数(定員数)に比べると非常に少ない。また、2006年度の統一入試からは新大学入試制度「アドミッション」が導入され、O-NET (Ordinary National Education

4 Charas Suwanwela (2006), "Chapter11 Higher Education Reform in Thailand" (pp.201-212)を参照のこと。

5 従来は「サターバン (Institute)」であったが、2005年以降は「マハーウィタヤライ (University)」と名称が変更されている。

Test), および専門性の高い学部受験に必要なA-NET (Advance National Education Test) が始まり, 一部試験の内容および選抜における配点の内訳が変更された。入試の合否の決定には, O-NETやA-NETの試験の点数と後期中等教育の成績を用いられた。また, 2010年度からの入学試験制度では, 専門性の高い学部受験のPAT (Professional Academic Test) が統一入試の一科目として採用された。アドミッション制度の試験の中では, 得点の高い方を大学に提出することになったが, 実際にこれを採用するかどうかは各大学によって決められる。また, このアドミッション制度の共通試験を採用せずに大学が独自で入試を実施することも可能である。2006年度以降, 独自試験が多くの大学で行われていたため, 各大学の学部別に定員数と合格者の情報を取ることは難しくなっている。このため, 本研究では国家教育試験機関で公開された統計資料を用いて2002年度から2005年度の主要国立大学の定員数と合格者数を考察する。

図表3 エントランス試験による大学定員数・合格者数の推移

(有名な) 国立大学	2002		2003		2004		2005	
	定員数	合格者数	定員数	合格者数	定員数	合格者数	定員数	合格者数
チュラロンコン大学	4,604	4,665	4,833	4,831	4,877	4,879	4,634	4,619
カセサート大学	5,913	5,916	6,982	6,928	7,853	7,828	8,668	8,456
タマサート大学	3,401	3,367	3,460	3,386	3,492	3,489	3,596	3,412
マヒドン大学	1,906	1,906	1,998	1,999	2,343	2,170	2,026	1,889
シラパコーン大学	1,455	1,455	1,422	1,387	2,104	2,058	2,815	2,542
シーナカリンウィ ロート大学	1,956	1,952	2,065	2,056	2,158	2,142	2,406	2,351
コンケン大学	1,994	1,979	2,255	2,227	2,519	2,466	3,161	3,044
チェンマイ大学	2,365	2,366	2,311	2,299	2,642	2,612	3,030	3,016
ブラパー大学	1,632	1,612	1,574	1,571	1,645	1,596	2,220	1,875
その他	22,161	21,387	26,781	25,728	36,757	31,857	50,944	36,500
合計 (全国の総数)	47,387	46,605	53,681	52,412	66,390	61,097	83,500	67,704

(出所) 各年の国家教育試験機関 (สถาบันทดสอบทางการศึกษาแห่งชาติ) より筆者作成。

図表3は9つの主要国立大学の定員数と合格者数の推移を示している。全体的に見ると, 2002年から2005年まで定員総数は47,387人から83,500人へ増加し, 約1.8倍になっている。2004年から2005年までに急激に定員数が増加した理由の一つは, ラチャパット大学とラチャモンコン大学のエントランス試験による選抜への参加である。国立大学を見ると, 2002年から2005年までチュラロンコン大学とマヒドン大学を除いて全ての大学の定員数は大きく増加している。特にシラパコーン大学の定員数はこの4年間で約2倍に増加している。シラパコーン大学はナコンパトム県にメインキャンパスを構えているが, タイ西部のペッチャブリー県にもキャンパスが設置された。1997年に開始されたペッチャブリー・キャンパスの工事は2000年代に入ってから完了し, 新設された経営学部, 畜産・農学部, 製品デザイン学部は2004年頃から学生を募集している。カセサート大学の定員数も2002年から2005年にかけて約2500人増加しているが, この4年間に約50コースが新設されたことに起

困する。東北部サコンナコン県のキャンパスでは2002年度に7つのコースがエントランスによる選抜を行ったが、2005年度にエントランスを利用しての入試が行われたコース数は14コースまで増加した。東部チョンブリ県のシラーチャー・キャンパスも同様にこの4年間にコース数は増加し、その中で夜間主コースという特別コースも新設された。

一方でマヒドン大学の文学部は2004年に新設され、一時的に定員数は増加したが、2005年にその定員数は以前の水準に戻った。マヒドン大学は2005年からエントランス試験による選抜の定員数を削減し、代わりに大学の独自試験を実施していたためである。

国立大学の定員数と合格者数の差を見ると、2002年度と2003年度の合格者数は定員数の近似値である。2004年度のマヒドン大学の合格者数は定員数を173人上回ったが、その他の国立大学では定員数と合格者数の差は100人未満であった。しかし、チュラロンコン大学、シーナカリンウィロート大学、チェンマイ大学を除くと、2005年度のほとんどの国立大学で合格者数が定員数を下回るという状況となっている。これは受験生にとって大学入学試験に合格することが容易になった可能性もあるだろう。

3. カセサート大学学部・学科の新設

この節では、タイにおける高等教育が「ユニバーサル化」した2004年を起点として、教育省が設置を認めたカセサート大学における設置組織を検証し、タイの高等教育における現代的な課題を明確にしたい。上記の図表3を見ると、2004年時点で国立大学の中でカセサート大学の定員数は最も大きく、タイの中部、東部、東北部に合計4つのキャンパスがある。そのため、本節ではカセサート大学を対象にして2004年から2014年まで新たに開設された学部・学科やプログラムを整理する。先述したようにカセサート大学には4つのキャンパスがあり、それぞれ「Bangkhen Campus (バンコク首都)」「Kamphaengsaen Campus (ナコンパトム県)」「Sriracha Campus (チョンブリ県)」「Sakonkhaon Campus (サコンナコン県)」に位置する。

最初にこの10年間で新たに開設された学部を確認すると、Bangkhen campusでは環境学部のみである。一方で、他の地方にあるキャンパスでは、スポーツ科学部、水産学部、教育開発科学部、理学部、工学部、経済学部、国際海事学部、保健学部が新設されていた。地方3つのキャンパスに新設された学科を見ると、コンピューターに関わる学科やビジネスに関わる学科等が多く設置されていた。続いて、プログラムを確認すると、Bangkhen Campusでの文系学部のほとんどは新たに特別プログラムが提供されている。

カセサート大学の特別プログラムと普通のプログラムの違いは授業時間と授業料である。普通プログラムの授業時間は午前9時から午後4時までであるが、特別プログラムの授業時間は午後1時から午後7時半までである⁶。Sriracha Campusの経営科学部の普通プログラムと特別プログラムの授業料を比較すると、特別プログラムの授業料は普通プログラムの授業料の約1.4倍であった⁷。また、新たに開設された110学科のうち、38学科は特別プログラムとInternational Courseであった。

6 普通プログラムの授業は月曜日から土曜日まで実施され、特別プログラムの授業は月曜日から日曜日まで行われている。

7 普通プログラムの授業料は年間で3万3千バーツである。特別プログラムの授業料は年間で4万7千バーツである。

図表4 カセサート大学各学部の学科一覧

学部	学科 (2004年)	学科 (2014年)		
農学部 (Bangkhen Campus)	農芸化学科	農芸化学科		
	害虫管理学科	害虫管理学科		
	農業科学科	農業科学科		
	家政学科	家政学科		
		食物栄養学科		
		熱帯農業科		
		熱帯農業科(International Program)		
水産学部 (Bangkhen Campus)	水産経営学科	水産経営学科		
	水産生物学科	水産生物学科		
	水産品学科	水産品学科		
	養殖学科	養殖学科		
	海洋科学科	海洋科学科		
林業学部 (Bangkhen Campus)	林業学科	林業学科		
理学部 (Bangkhen Campus)	数学科 (B. sc)	数学科 (B. sc)		
	数学科 (B. Arts)	-		
	化学科	化学科		
	分子微生物学科	分子微生物学科		
	生物学科	生物学科		
	植物学科	植物学科		
	遺伝学科	遺伝学科		
	応用放射線・放射性同位元素学科	応用放射線・放射性同位元素学科		
	動物科学科	動物科学科		
	物理学科	物理学科		
	統計学科	統計学科		
	コンピューターサイエンス学科	コンピューターサイエンス学科		
		工業化学科		
		地球科学科		
		コンピューターサイエンス学科 (特別プログラム)		
		生命理工学科(International Program)		
	獣医技術学部 (Bangkhen Campus)	獣医技術学科	獣医技術学科	
		獣医学部 (Bangkhen Campus)	生体構造学科	生体構造学科
			生理学科	生理学科
			薬理学科	薬理学科
病理学科			病理学科	
寄生虫学科			寄生虫学科	
微生物・免疫学科			微生物・免疫学科	
動物資源生産学科			動物資源生産学科	
大型野生動物臨床医学			大型野生動物臨床医学	
獣医公衆衛生学科			獣医公衆衛生学科	
			ペット臨床医学	
	金融学科			
経営学 (Bangkhen Campus)	金融学科	金融学科		
	マネジメント学科	マネジメント学科		
	マーケティング学科	マーケティング学科		
	会計学科	会計学科		
		会計学科(特別プログラム)		
	オペレーション・マネジメント学科			
人文学部 (Bangkhen Campus)	哲学・宗教学科	哲学・宗教学科		
	英語学科	英語学科		
	フランス学科	フランス学科		
	タイ語学科	タイ語学科		

タイにおける高等教育機関の発展に関する一考察：
2000年代以降の量的拡大に着目して

学部	学科 (2004年)	学科 (2014年)
	タイ文学科	タイ文学科
	英文学科	英文学科
	観光学科	観光学科
	ホテルマネジメント学科	
	マスコミュニケーション学科	マスコミュニケーション学科
		ドイツ語学科
		日本語学科
		中国学科
		英語学科 (特別プログラム)
		ビジネス中国語学科 (特別プログラム)
		ビジネス日本語学科 (特別プログラム)
工学部 (Bangkhen Campus)	コンピューター学科	コンピューター学科
	化学科	化学科
	機械工学科	機械工学科
	環境工学科	環境工学科
	電気学科	電気学科
	土木工学科	土木工学
	材料工学科	材料工学科
	水資源工学科	水資源工学科
	コンピューター学科 (特別プログラム)	コンピューター学科 (特別プログラム)
	化学科 (特別プログラム)	化学科 (特別プログラム)
	機械工学科 (International Course)	機械工学科 (International Course)
	ソフトウェア学科 (International Course)	ソフトウェア学科 (International Course)
	電気学科 (International Course)	電気学科 (International Course)
	航空宇宙工学科 (Double degree)	航空宇宙工学・ビジネス学科 (名前変更) (Double degree)
教育学部 (Bangkhen Campus)	数学教育学科	数学教育学科 (5年)
	理科教育学科 (物理)	理科教育学科 (5年)
	理科教育学科 (生物学)	-
		家庭科教育学科 (5年)
		ビジネス・コンピューター学科 (5年)
		健康教育学科 (5年)
		体育教育学科 (5年)
経済学部 (Bangkhen Campus)	経済学科	経済学科
	協同組合経済学科	協同組合経済学科
	アグリビジネス学科	アグリビジネス学科
	経済学科 (特別プログラム)	経済学科 (特別プログラム)
		農業経済学科
		農業経済学科 (特別プログラム)
		協同組合経済学科 (特別プログラム)
		アグリビジネス学科 (特別プログラム)
社会学部 (Bangkhen Campus)	産業・組織心理学科	産業・組織心理学科
	コミュニティ心理学科	コミュニティ心理学科
	政治行政学科 (司法行政)	-
	政治行政学科 (国際関係)	-
	社会人類学科	社会人類学科
		臨床心理学科
		発達心理学科
		歴史学科
		政治学科
		地理学科
		政治学科 (特別プログラム)
		政治学科 (行政) (特別プログラム)

学部	学科 (2004 年)	学科 (2014 年)
		政治学科 (司法行政) (特別プログラム)
		政治行政学科 (国際関係) (特別プログラム)
		法学科 (特別) プログラム
		東南アジア研究学科 (特別プログラム)
環境学部 (Bangkhen Campus)		技術・環境管理学科
農業産業学部 (Bangkhen Campus)	食品科学・包装技術学科	食品科学・包装技術学科
	繊維科学技術学科	繊維科学技術学科
	食品工学科	食品工学科
スポーツ科学部 (Kamphaengsaen Campus)	-	スポーツ・運動科学科
	-	スポーツ・運動科学科 (特別プログラム)
農学部 (Kamphaengsaen Campus)	農業生物工学科	農業生物工学科
	昆虫学科	昆虫学科
	土壌学科	土壌学科
	稲作・畑作学科	稲作・畑作学科
	園芸学科	園芸学
	植物病理学科	植物病理学科
	農業普及とコミュニケーション学科	農業普及とコミュニケーション学科
		農業機械・メカトロニクス学科
水産学部 (Kamphaengsaen Campus)	-	養殖学科
工学部 (Kamphaengsaen Campus)	機械工学科	機械工学科
	食品工学科	食品工学科
	灌漑工学科	灌漑工学科
	土木工学科	土木工学科
		農業工学科
		コンピューター・電気電子工学科
		経営・ロジスティクス工学科
		コンピューター・電気電子工学科 (特別 プログラム)
		土木工学科 (特別プログラム)
		農業工学科 (特別プログラム)
		機械工学科 (特別プログラム)
教養・理学部 (Kamphaengsaen Campus)	一般理学科	-
	生命化学科	生命化学科
	英語学科	英語学科
		化学科
		物理学科
		コンピューターサイエンス学科
		微生物学科
		マネジメント学科
		マーケティング学科
		会計学科
		情報技術学科
		応用数学科
		ホテル観光学科
		情報技術学科 (特別プログラム)
		コンピューター学科 (特別プログラム)
		マネジメント学科 (特別プログラム)
教育開発科学部 (Kamphaengsaen Campus)		農学・環境学科 (4 年)
		体育教育学科 (5 年)
		英語教育学科 (5 年)
		数学教育学科 (5 年)

タイにおける高等教育機関の発展に関する一考察：
2000年代以降の量的拡大に着目して

学部	学科 (2004 年)	学科 (2014 年)
理学部 (Sriracha Campus)		理科教育学科 (5 年)
		コンピューターサイエンス学科
		環境科学科
		情報技術学科
		物理学科
		応用数学科
		化学科
		電気工学科
		コンピューターサイエンス学科 (特別コース)
		情報技術学科 (特別コース)
工学部 (Sriracha Campus)		経営工学科
		機械工学科
		コンピューター工学科
		土木工学科
資源環境学部 (Sriracha Campus)	環境科学科	- (理学部に統合)
		機械創造工学科 (特別プログラム)
経済学部 (Sriracha Campus)		経済学科
国際海事学部 (Sriracha Campus)		造船海洋工学科
		海事科学科
経営科学部 (Sriracha Campus)	マーケティング学科	マーケティング学科
	金融学科	金融学科
	ホテル学科	ホテル学科
	国際ビジネス学科	国際ビジネス学科
		マネジメント学科
		会計学科
		ロジスティクス学科
		マネジメント学科 (特別プログラム)
		マーケティング学科 (特別プログラム)
		金融学科 (特別プログラム)
		国際ビジネス学科 (特別プログラム)
		ホテルと観光学科 (特別プログラム)
		会計学科 (特別プログラム)
	ロジスティクス学科 (特別プログラム)	
理工学部 (Sakonkakhon Campus)		機械・製造工学科
		電気・コンピューター工学科
		土木・環境工学科
		土木・環境工学科
		情報技術工学科
		応用化学科
		コンピューター工学科
		電気・コンピューター工学科 (特別プログラム)
		土木・環境工学科 (特別プログラム)
		情報技術工学科 (特別プログラム)
天然資源・農産業学部 (Sakonkakhon Campus)	食品技術学科	食品技術学科
	農業生物資源学科	農業資源学科 (名前変更)
		農業資源と生産管理学科
		水産学科
		動物科学科
教養・経営科学部 (Sakonkakhon Campus)	会計学科	食品安全・栄養学科
		会計学科

学部	学科 (2004年)	学科 (2014年)
	マーケティング学科	マーケティング学科
	ホテルと観光学科	ホテルと観光学科
		マネジメント学科
		英語学科
		金融学科
保健学部 (Sakonkakhon Campus)		保健学科

(出所) 国家教育試験機関の資料を参考に筆者作成。

図表5は学問領域別の学部・学科数を示している。カセサート大学はタイの農業大学として設立されたため、2000年代まで農水産系学部の数は最も多かった。しかし、社会や学生からの多様なニーズに対応するために2012年以降から理工系や文系等の学部・学科は新たに新設された。

図表5 カセサート大学の学部数と学科数

	学部数 (2004年)	学部数 (2014年)	学科数 (2004年)	学科数 (2014年)
農水産系	6	7	15	31
理工系	4	7	33	78
文系① (経営・経済)	4	5	15	35
文系② (社会・人文・教育)	3	4	17	39
その他	3	7	11	18
合計	20	30	91	201

4. おわりに

タイにおける高等教育機関の発展について、2000年代以降の大学進学率と新しい学科の新設を整理し、その変化を検証した。タイにおける高等教育の状況は量的に大きく変容してきたことは明らかである。しかし、高等教育の普及の問題について二点取り上げたい。

一つ目は、1991年から高等学校卒業者のほとんどは大学へ進学しているため、実質的に誰でも大学へ入学できる時代になったと考えられるため、以前と比べて学力が低い学生が大学へ入学できるようになると考えられる。

二つ目は、2004年から2014年にかけてカセサート大学の新設された学科の約35%は特別プログラムとInternational Courseであった。他の国立大学において特別プログラムを開始することは、大学の経営継続において、収入源の多様化において極めて重要な施策の一つといえる。特に国立大学の独立行政法人化の進展もこうした動きを加速させたと考えられる。

今後の課題として、本研究で取り上げたカセサート大学のみではなく、他の地方国立大学との比較することで研究対象先を広げていく必要があると考えられる。また、本研究では量的な面のみを分析してきたため、今後教育の質的な面についても検討する必要がある。

参考文献

- Charas, S. (2006) “Chapter11 Higher Education Reform in Thailand”, *Higher Education, Research and Knowledge in the Asia Pacific Region*, V. Lynn Meek, pp.201-212
- Ministry Of Education. (2017). Educational Statistic in Brief. 2017.
- Office of the National Education Commission, “National Education Act of B.E. 2542 (1999)”.
- Office of the National Education Commission, (2001), “Education in Thailand” 2001, p.106.
- 村田翼夫 (2007) 『タイにおける教育発展。一国民統合・文化・教育協力』 東信堂。
- トロウ:天野郁夫・喜多村和之訳 (1983) 『高学歴社会の大学—エリートからマスへ—』 東京大学出版会: 東京。
- 中邑賢龍 (1997) 知的障害及び自閉的傾向を持つ子供のVOCA利用可能性に関する研究: 養護学校におけるVOCA遊びと会話能力からの検討. 特殊教育学研究, 35(2), 33-41.
- 野崎義和・川住隆一 (2012) 「超重症児」該当児童生徒の指導において特別支援学校教師が抱える困難さとその背景. 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 60(2), 225-241.
- 田川元康 (2002) 自閉症の障害特性と支援のあり方: TEACCH に学ぶ. 児童学研究, 32, 38-45.

The Development of Higher Education System in Thailand: Focusing on the Quantitative Expansion of Education since 2000s

Abstract

This research aims to organize the development of higher education and its policies in Thailand. The history of higher education in Thailand began in the twenty century and started with the establishment of Chulalongkorn University in 1917. Since 1991, more than 80% of high school graduates have enrolled in higher education. Higher education in Thailand has entered a phase of universal access, wherein the higher education net enrollment rate has exceeded 50% since 2004. There has been a rapid increase in the number of faculties, departments, and programs in computer and environmental fields. As a result, Thailand's government has achieved the quantitative expansion of higher education. However, It is necessary to examine whether the quality of education has been improved.